

お知らせ: 次回発信日は5月15日週報(予定)

Jミルクが2025年1月31日に公表した「需給見通し(※2024年12月迄実績)」の予測値と直近の実績値(牛乳乳製品統計)をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行: 一般社団法人Jミルク生産流通グループ

・3月の全国の生乳生産量は、前年同期比+2.3%(日均量、以下同)と8カ月連続で上回った。地域別では北海道で同+4.5%と8カ月連続の増加となり、上昇幅を前月から拡大させた。一方、都府県では▲0.4%と9カ月連続で前年を下回った。指定団体受託乳量(速報)では、北海道(ホクレン)が8月下旬から4月下旬まで前年水準を上回っているものの、上昇幅は縮小傾向にある。都府県は、3月下旬に6月上旬以来、約10か月ぶりに前年水準を上回ったものの、4月中旬は再び前年割れに転じた。

・3月の牛乳生産量は、乳価改定の影響が昨年8月で一巡したこともあり+0.9%と7カ月連続(日均量)で前年水準を上回った。一方、成分調整牛乳および乳飲料は引き続き低調で、いずれも前年割れとなった。加工乳は3か月ぶりに前年水準を下回った。はっ酵乳は、昨年春ごろからの回復基調が継続しており、3月は+3.7%と10カ月連続で前年水準を上回ったものの、増加幅は前月から縮小している。こうした中で、生乳の飲用等向処理量は+2.0%と6カ月連続で前年水準を上回った。

・脱脂粉乳の3月の生産量は16.8千ト、推定出回り量は18.8千トと需要量が供給量を上回ったものの、月末在庫量は52.0千ト(+9.0%)となり、4カ月連続で5万ト台を維持した。脱脂粉乳の在庫量が前年水準を上回るの4カ月連続。バターの生産量は8.3千ト、推定出回り量は8.1千ト、輸入売渡数量は1.1トと供給量が需要量を上回ったため、在庫量は約1.3千ト増加し27.2千トとなった。

・牛乳類の4月の販売動向は、4品目すべて前年水準を下回った。3月までは、ドラッグストアでの販売個数が堅調に推移したものの、4月以降は全業態で減少傾向が続いている。牛乳消費が伸び悩んでいる背景には、主食であるコメの価格上昇と販売数量の増加が影響している可能性がある。ゴールデンウィーク期間中には、学校給食用牛乳の供給が一時休止するため、大幅な需給緩和が懸念されたが、関係者による広域的な配乳調整の結果、現時点で大きな混乱は確認されていない。

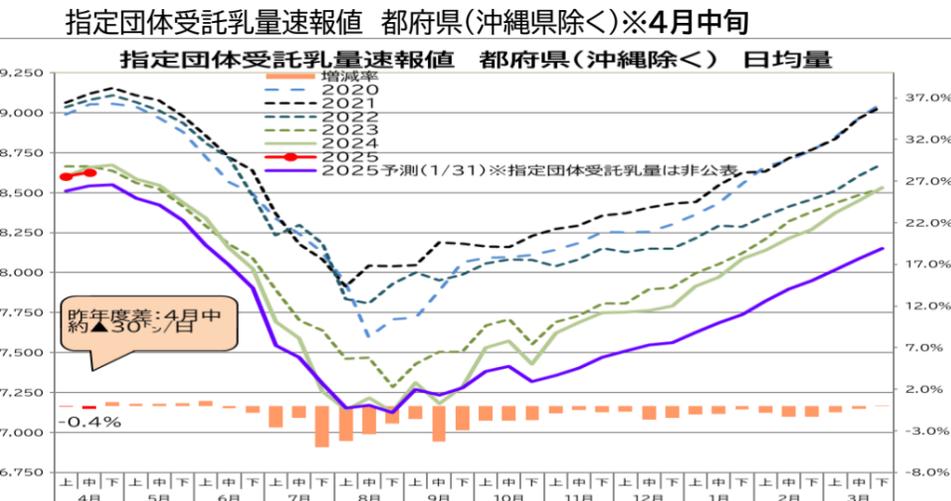
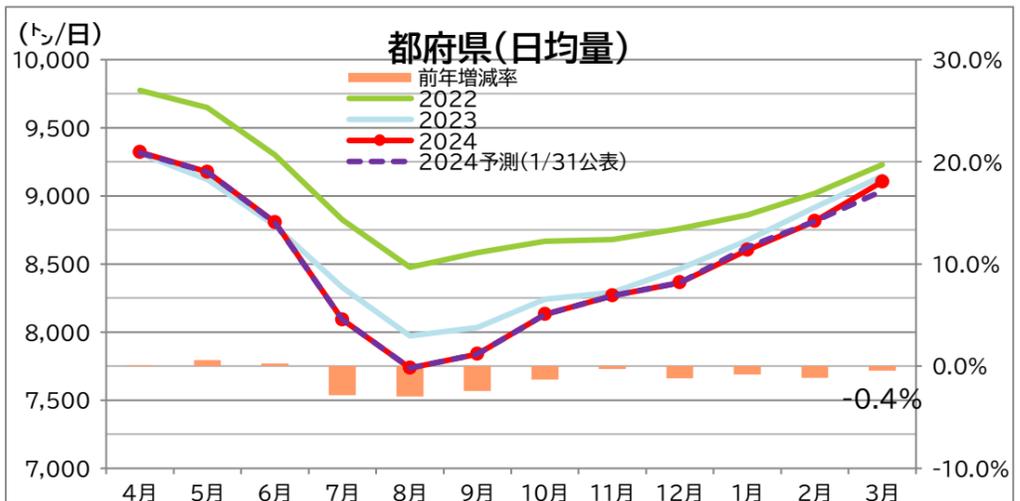
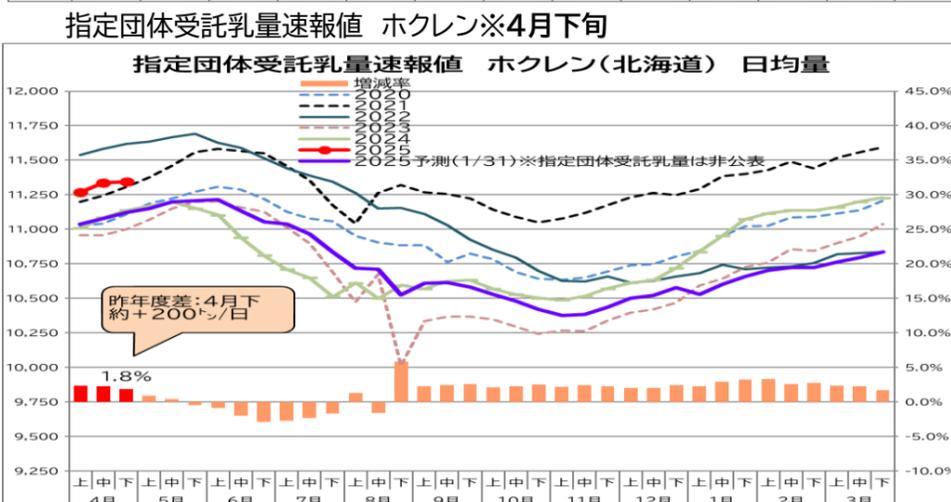
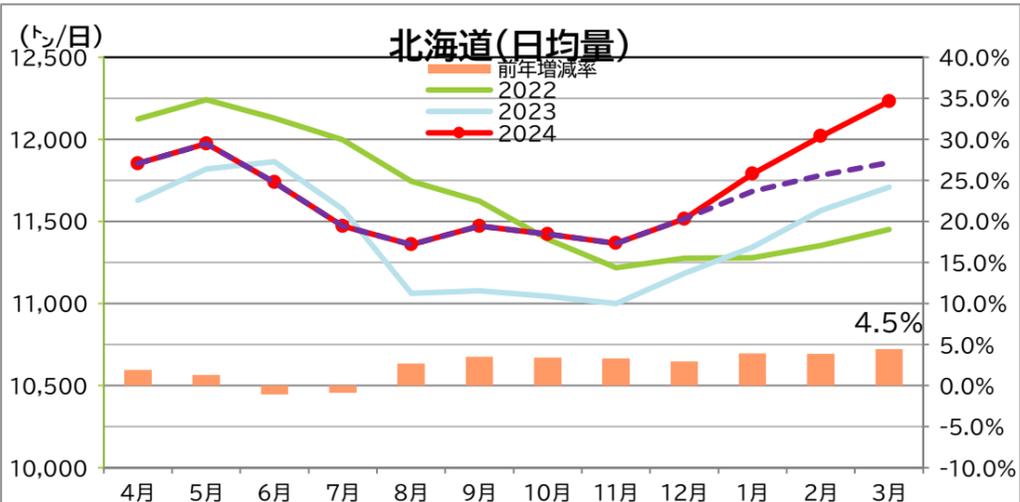
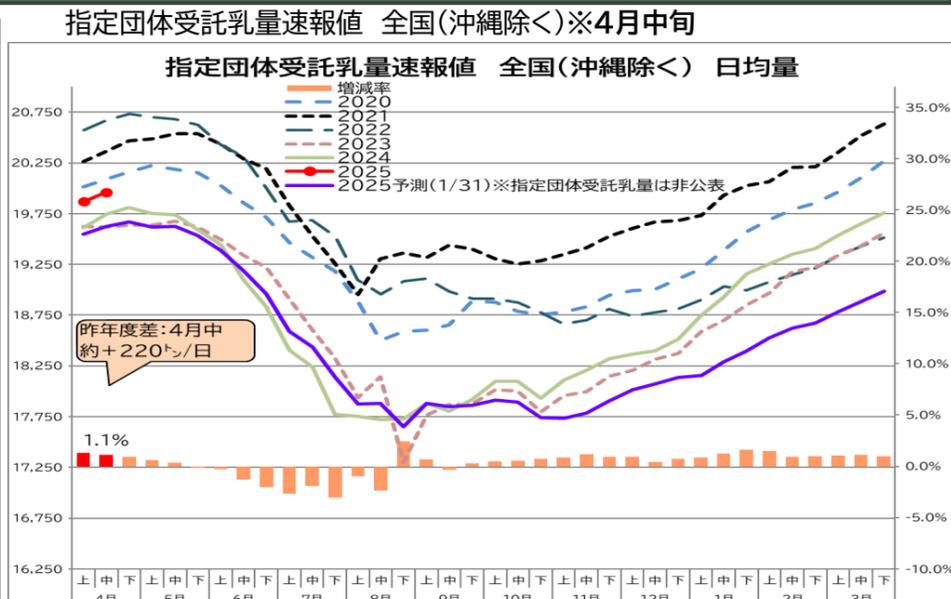
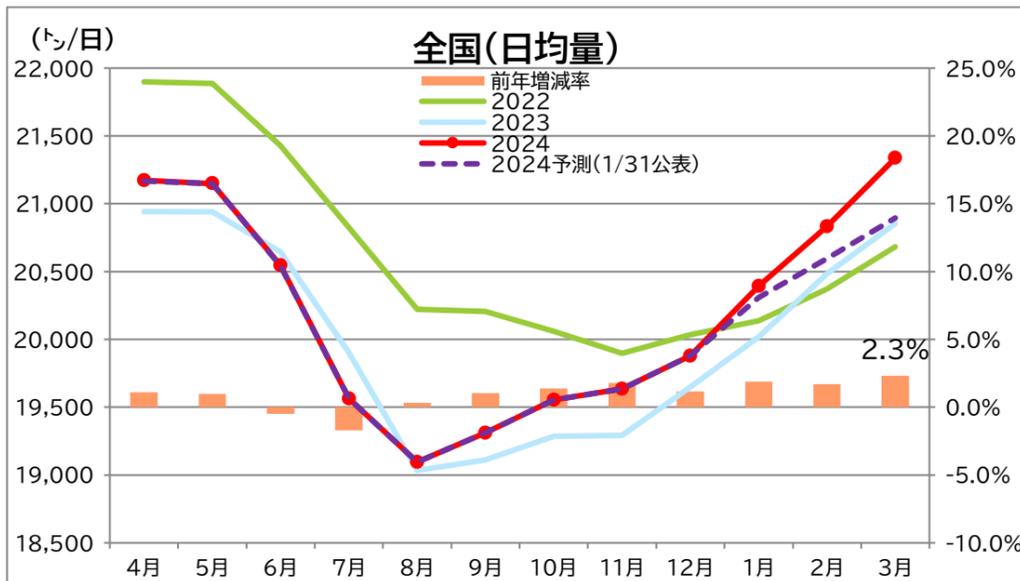
・直近(4/28週)の販売動向は、牛乳類が前年比93.3%と前週から減少幅を拡大させた。6月には乳製品、8月には飲用等向けの乳価引き上げも控えており、値上げに伴う需要減退を避けるためにも引き続き関係者による牛乳の積極的な需要喚起と理解醸成の取り組みが求められる。はっ酵乳は、1月中旬以降、販売個数がピークアウトしており、3品目の合計販売個数は5週連続で前年水準を下回っている。家庭用バターの販売単価は4週ぶりに下落したものの、販売個数は4週連続で前年水準を下回っている。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

(1)3月の生乳生産量は、全国661.4千ト(前年同月比102.3%)、北海道379.2千ト(同104.5%)、都府県282.2千ト(同99.6%)。

(2)1月に公表したJミルク予測値(全国647.8千ト、北海道367.6千ト、都府県280.2千ト)との比較は北海道、都府県ともに上振れした。

(3)直近の指定団体受託乳量速報値は全国が4月中旬(最新、以下同)で同101.1%、都府県(沖縄除く)が同99.6%、北海道は4月下旬で同101.8%となった。

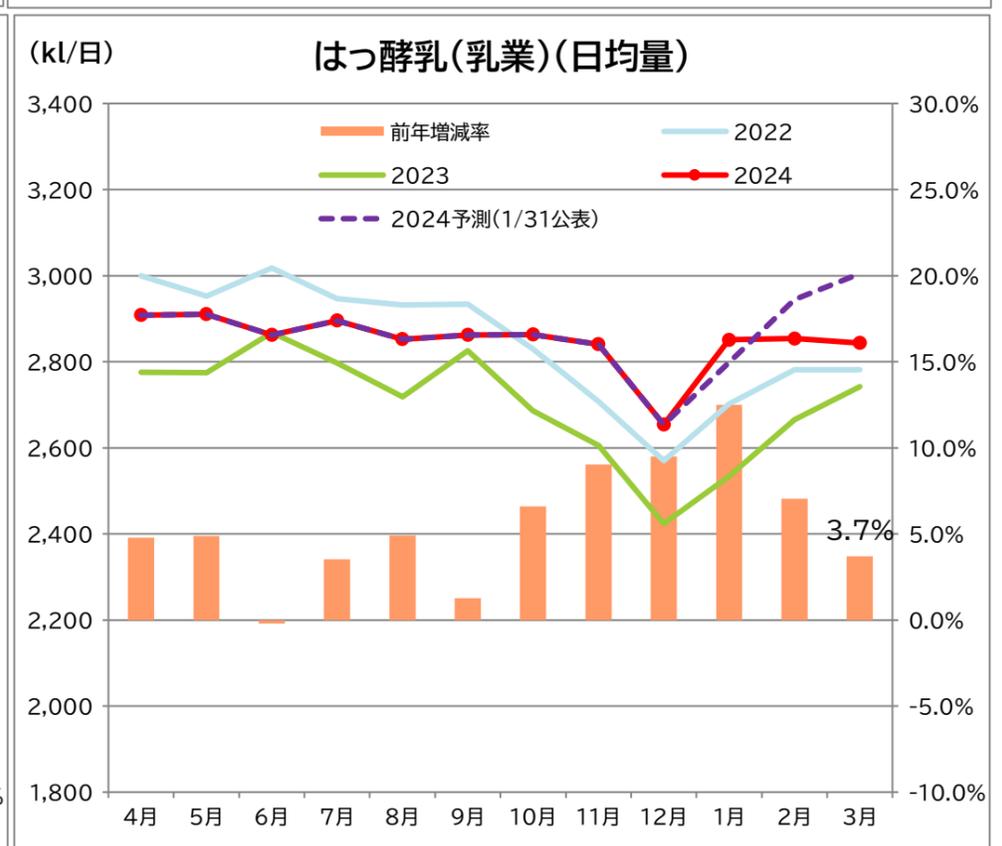
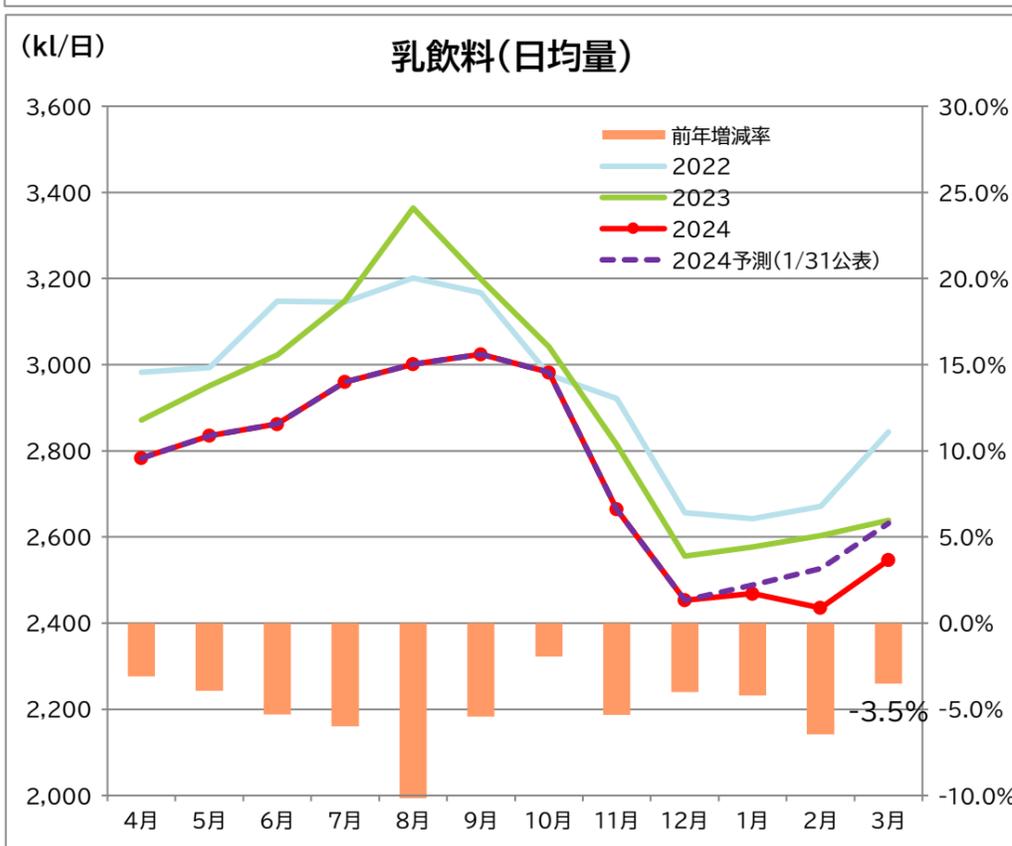
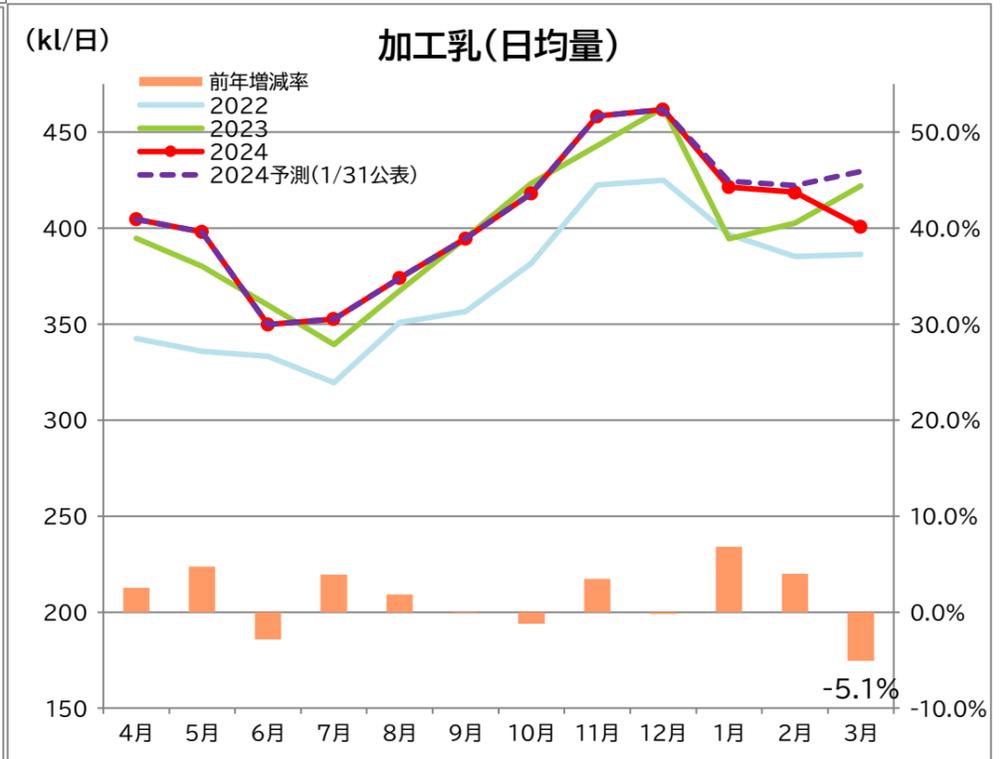
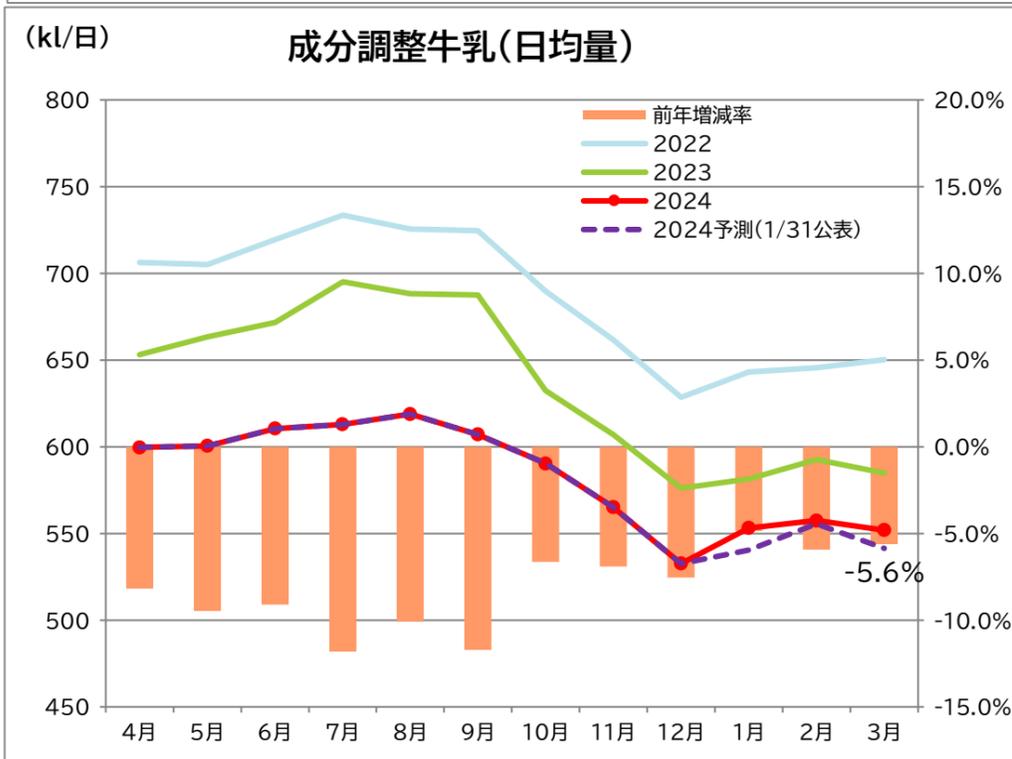
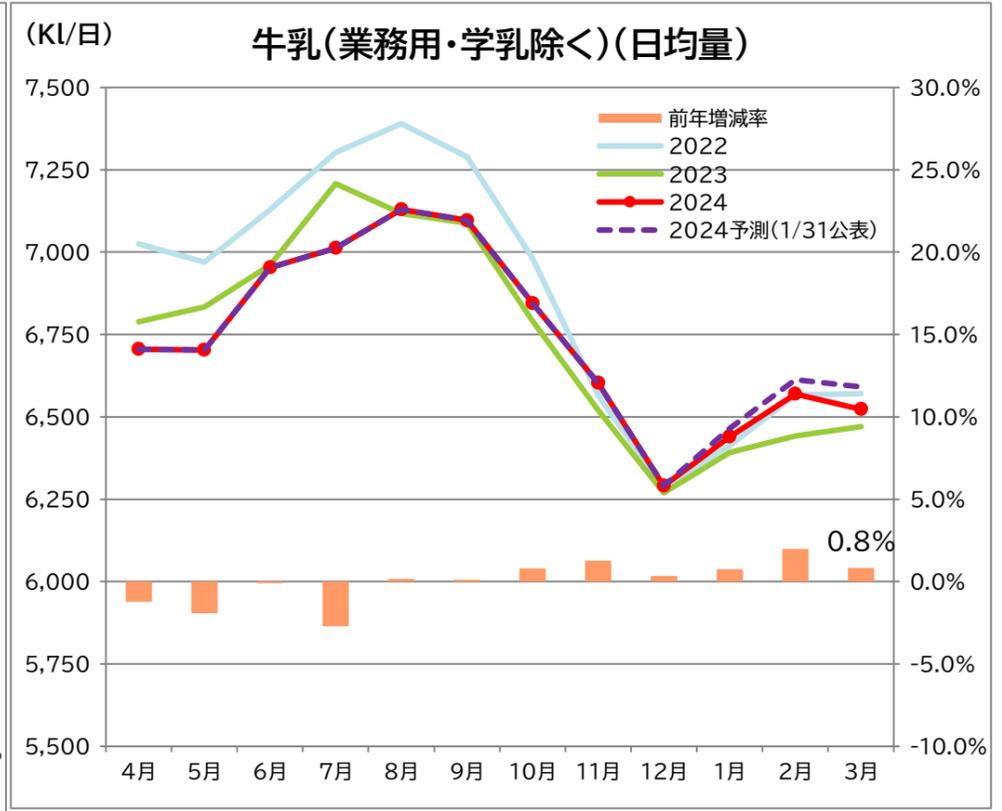
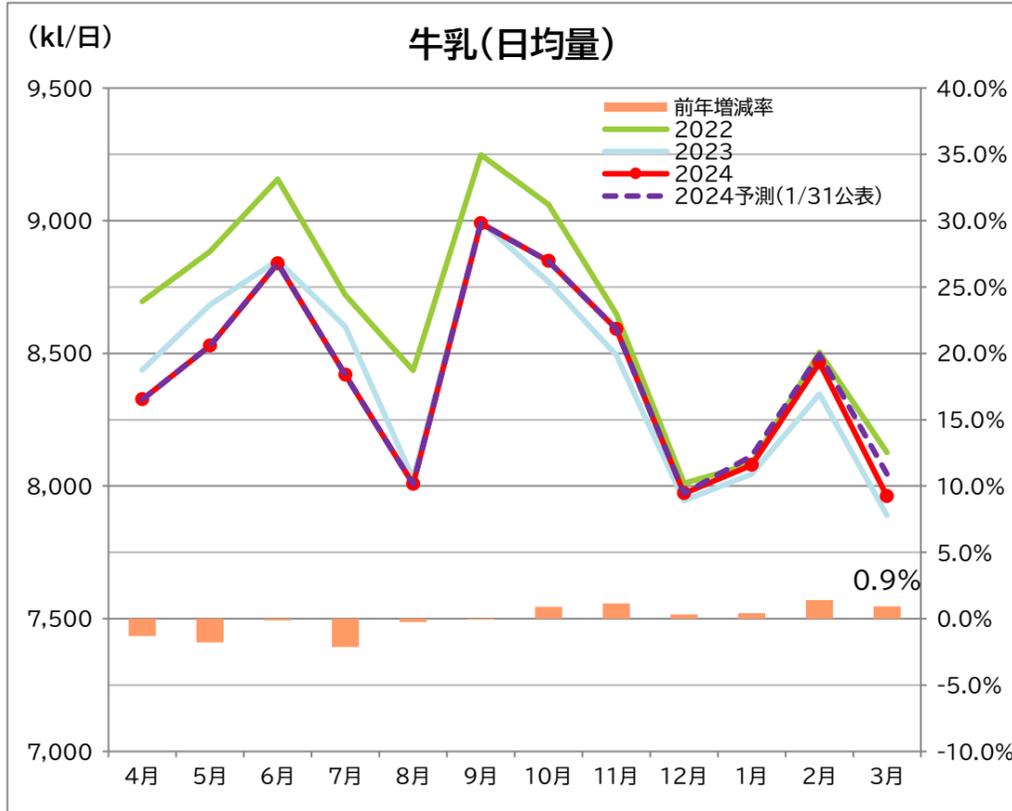


【牛乳等生産量】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)3月の牛乳等生産量は、牛乳246.8千kl(前年同月比100.9%)、成分調整牛乳17.1千kl(同94.4%)、加工乳12.4千kl(同94.9%)、乳飲料78.9千kl(同96.5%)。牛乳類合計(牛乳・成分調整牛乳・加工乳・乳飲料)では、355.3千kl(同99.4%)となり、28カ月連続で前年を下回った。

(2)「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同100.8%、「業務用」は同100.4%、「学乳」は102.4%。

(3)はっ酵乳(乳業)は88.1千kl(同103.7%)と9カ月連続で前年を上回った。はっ酵乳(非乳業:2月実績)は100.2%となった。

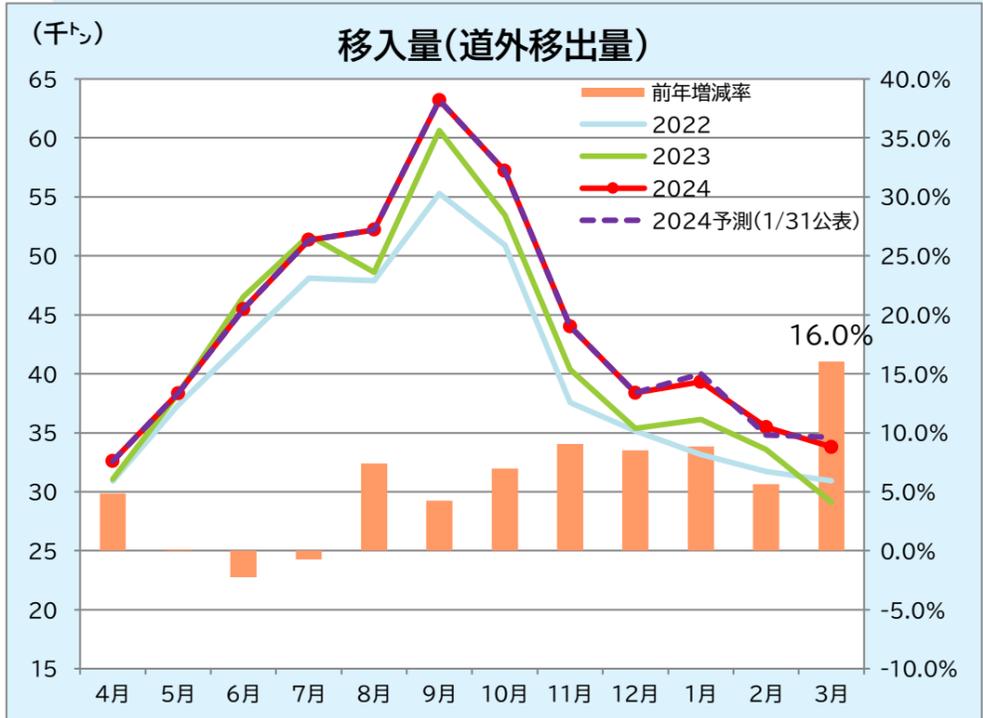
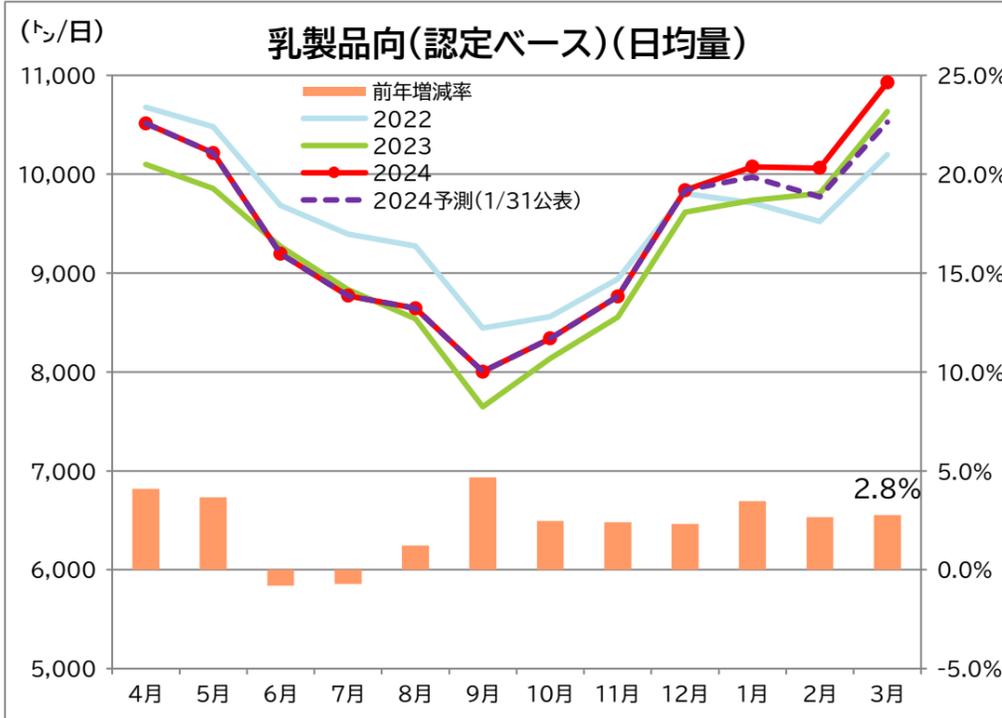
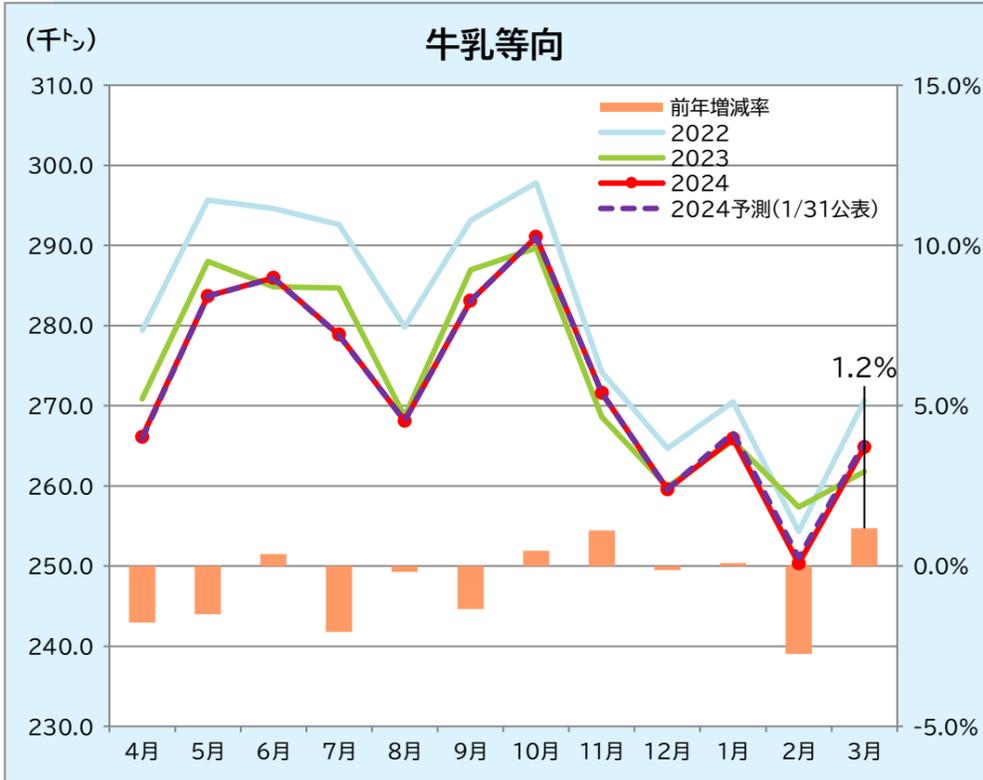
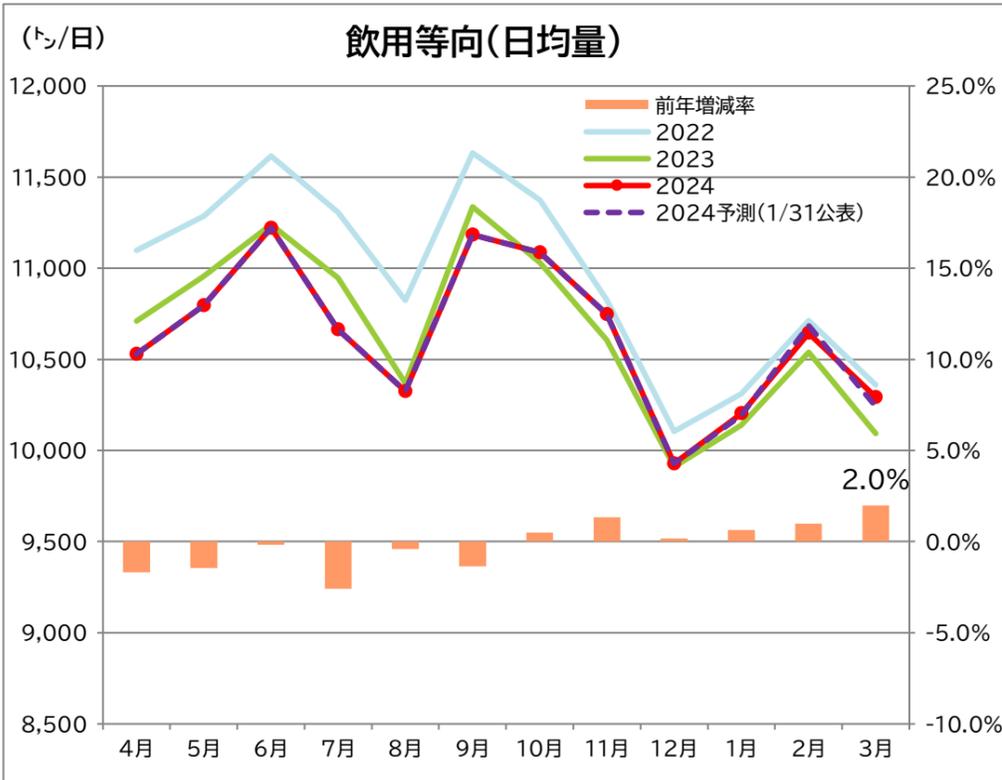
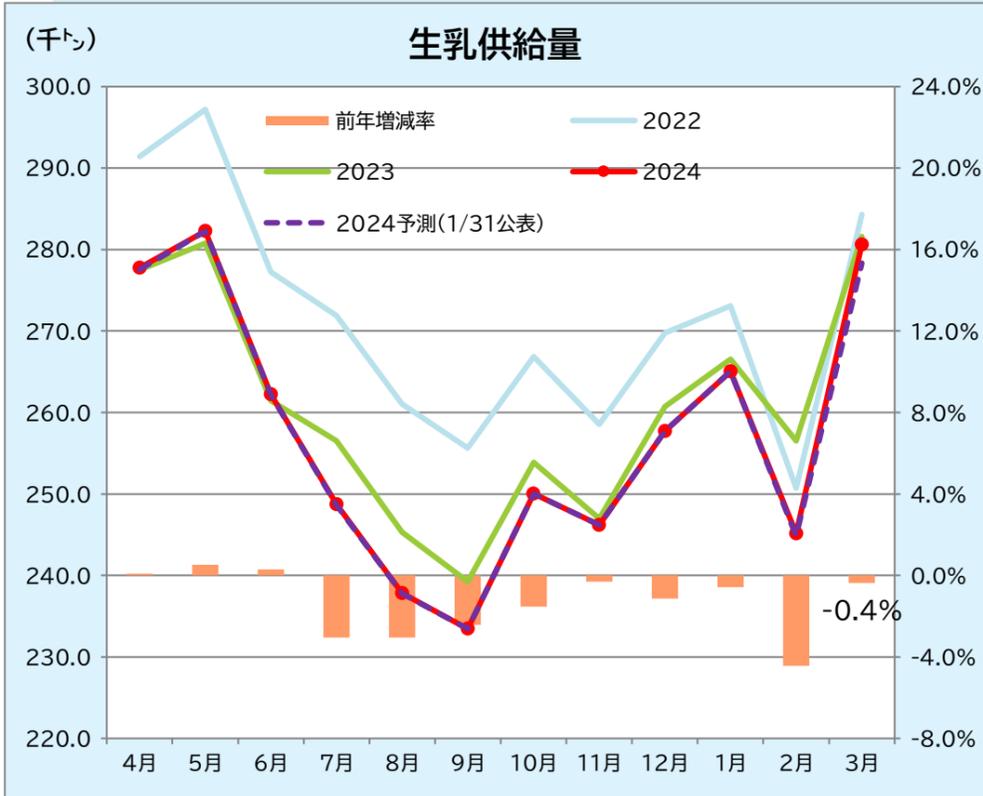
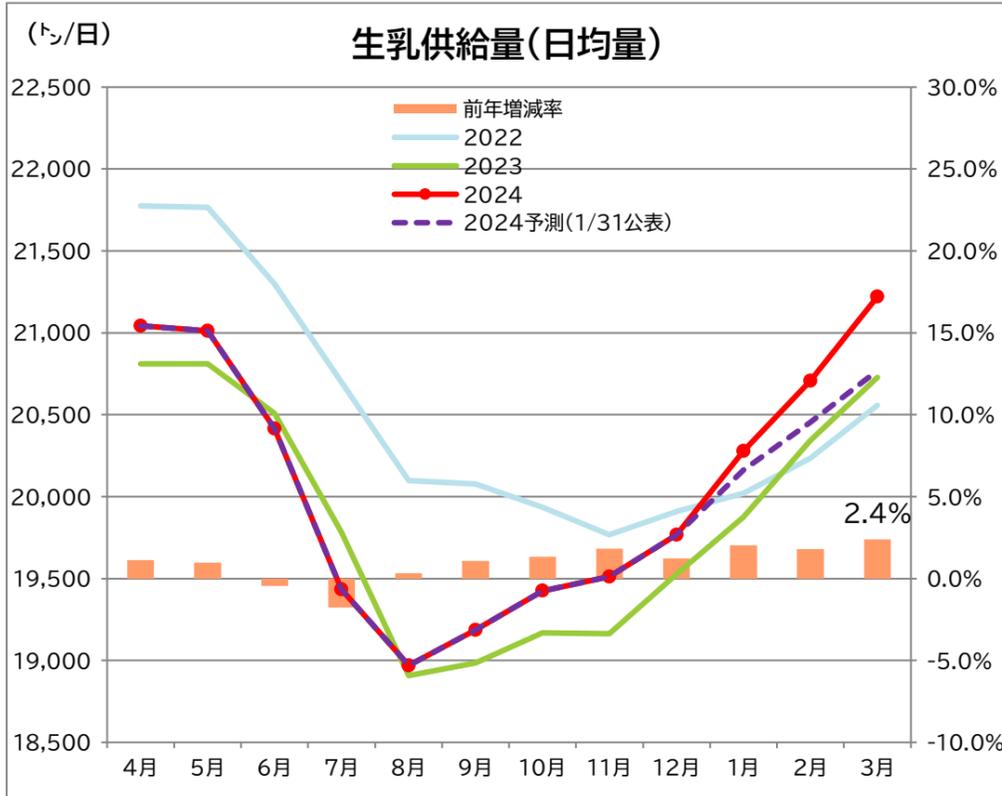


【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)3月の生乳供給量は657.9千ト(前年同月比102.4%)、飲用等向319.1千ト(同102.0%)、乳製品向(認定ベース)338.8千ト(同102.8%)。  
 (2)飲用等向が6か月連続で前年を上回ったが、生乳供給量も前年を上回り、結果として乳製品向も8か月連続で前年を上回った。  
 (3)1月に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:643.8千ト)は大きく上振れ、飲用等向(予測値:317.5千ト)も上振れ、乳製品向(予測値:326.3千ト)も上振れとなった。

【都府県の生乳需給】

(1)3月は、生乳供給量280.6千ト(前年同月比99.6%)、牛乳等向264.8千ト(同101.2%)。  
 (2)北海道からの移入量については33.8千ト(同116.0%)と前年を上回った。  
 (3)1月に公表した予測値との比較では、生乳供給量(予測値:278.3千ト)はやや上振れ、牛乳等向(予測値:265.4千ト)はやや下振れ、移入量(予測値:34.6千ト)も下振れとなった。

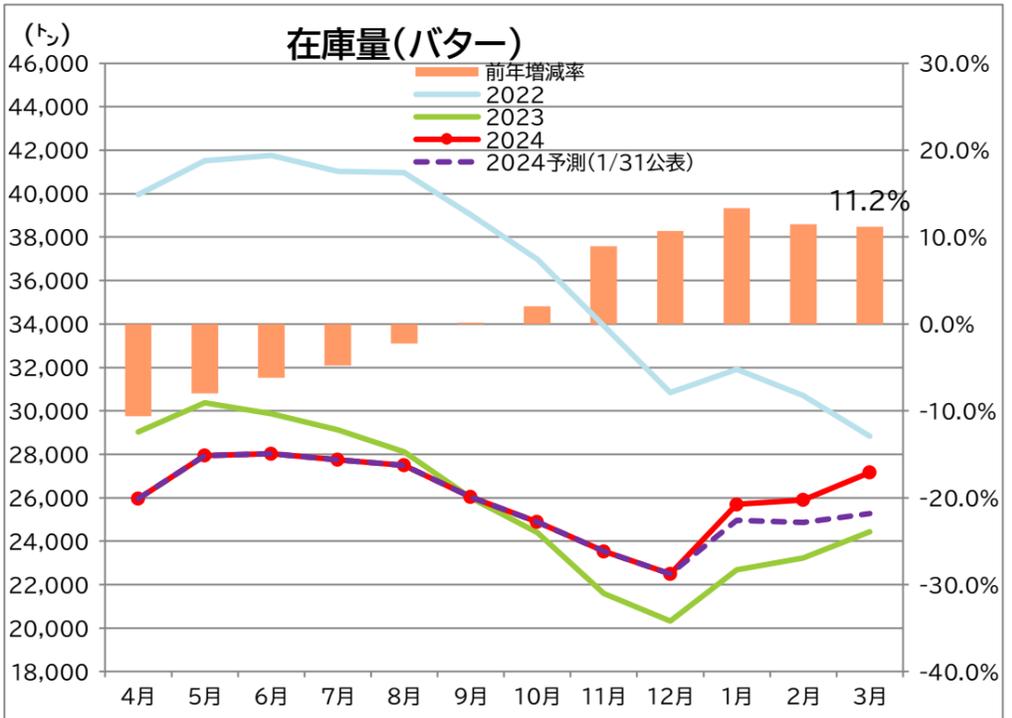
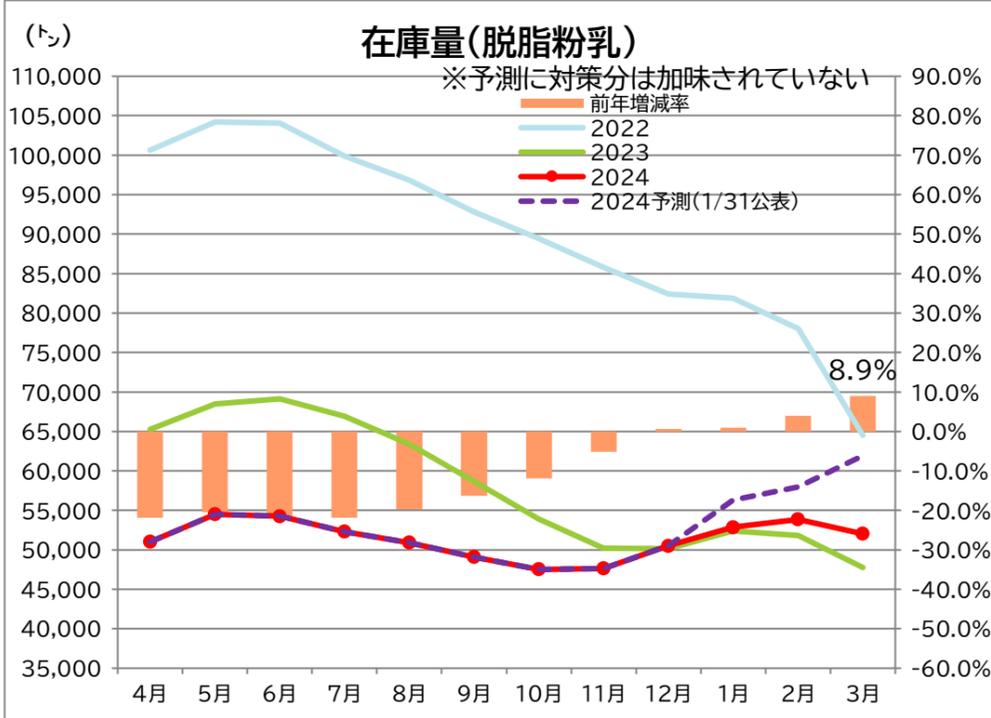
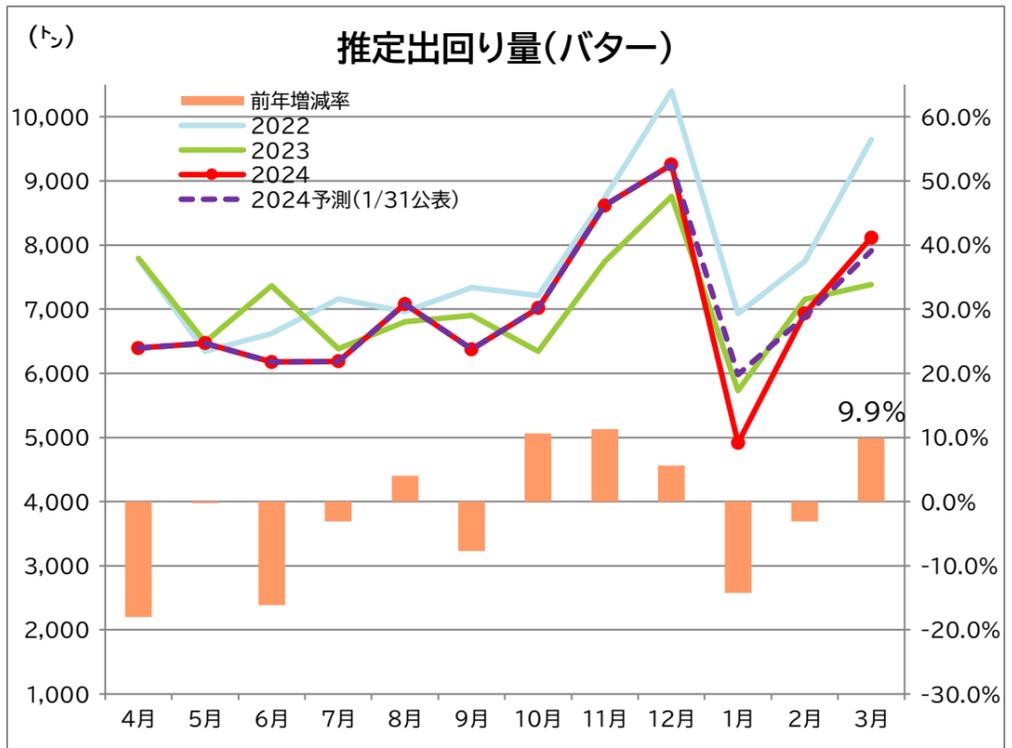
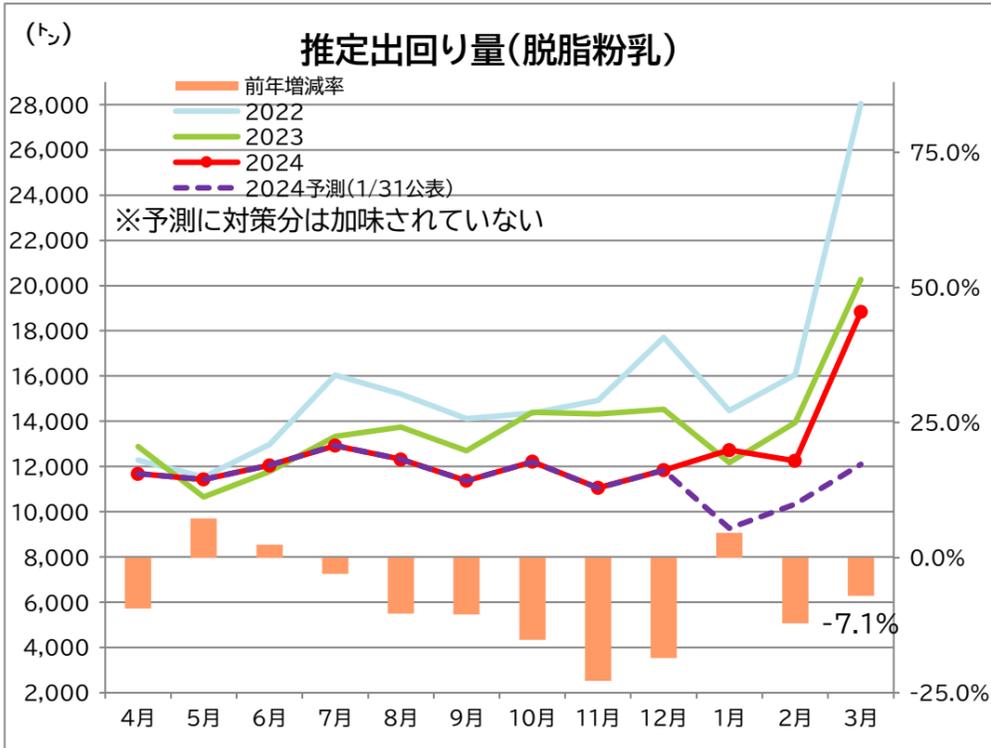
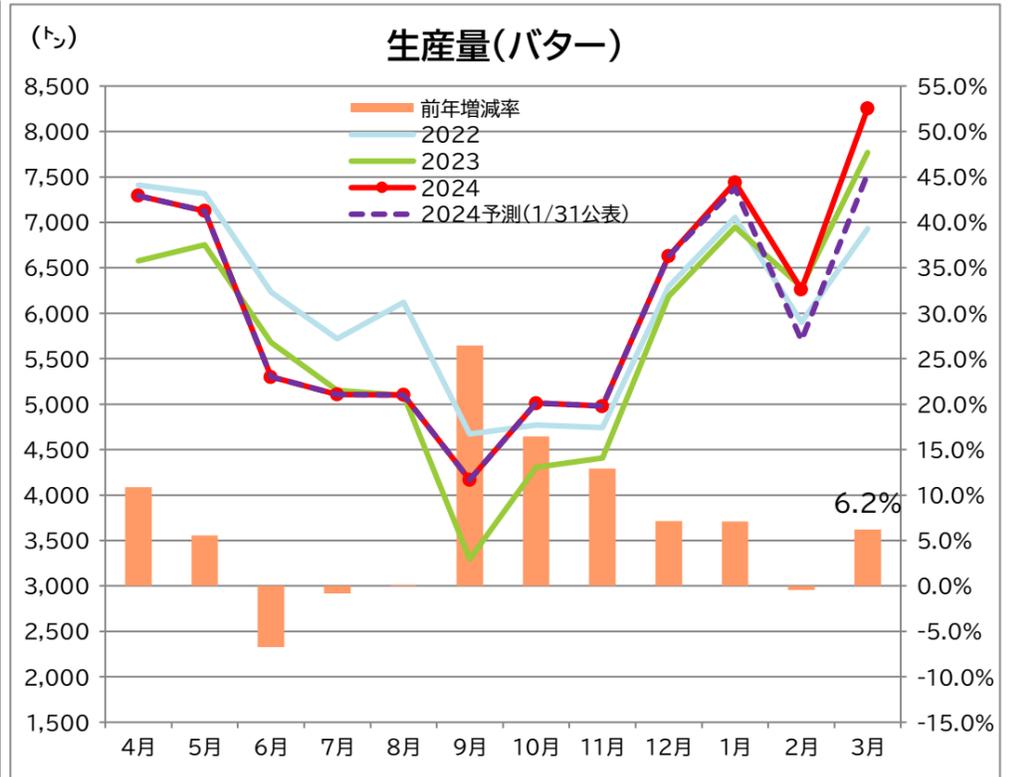
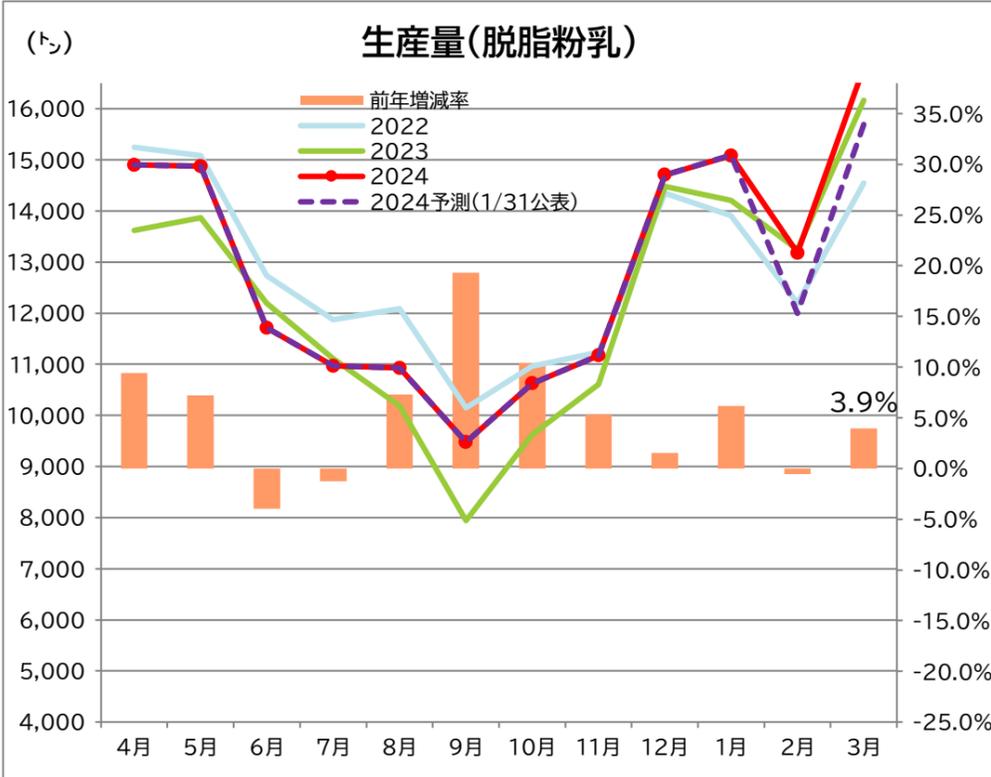


## 【脱脂粉乳・バターの需給】

(1)脱脂粉乳について3月の生産量は16.8千ト(前年同月103.9%)、推定出回り量は18.8千ト(同92.9%)となった。出回り量が生産量を上回ったため在庫量は前月から1.9千ト程度減少し、52.0千ト(同109.0%)となった。在庫量は昨年12月、約2年3カ月ぶりに前年水準を上回り、3月も4カ月連続で前年水準を超えた。  
 ※なお、推定出回り量の実績には在庫対策による国産脱脂粉乳への置換分を含む。

(2)バターについて、3月の生産量は8.3千ト(同106.2%)、推定出回り量は8.1千ト(同109.9%)となった。国家貿易による輸入売渡分(約1.1千ト)も考慮すると在庫量は前月から約1.3千ト増加し27.2千ト(同111.2%)となった。在庫量は7カ月連続で前年超え。

➡脱脂粉乳とバターの需要のアンバランスが表面化するなか、飲用需要が低調に推移している。脱脂粉乳は、積み増しを避けるべく需要拡大や理解醸成活動による消費の底上げを図る必要がある。バターは、消費動向を注視し、国家貿易による対応も含めて需要に対応した安定供給に努める必要がある。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)4月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比96.5%、成分調整牛乳:同94.6%、加工乳:同94.2%、乳飲料:同91.7%。牛乳類全体:同95.6%

【参考】2023年3月比…牛乳:94.5%、成分調整牛乳:81.1%、加工乳:99.0%、乳飲料:92.3%(牛乳類トータル:93.3%)

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(4/28)の販売個数は、牛乳:前年同期比94.0%、成分調整牛乳:同94.6%、加工乳:同86.2%、乳飲料:同90.2%。牛乳類トータルでは同93.3%

出典 (株)インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

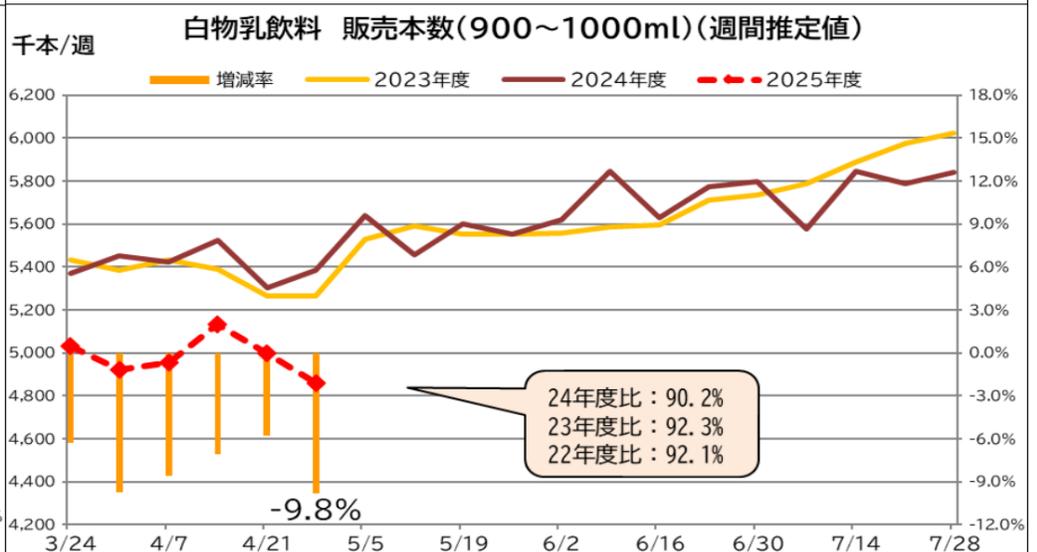
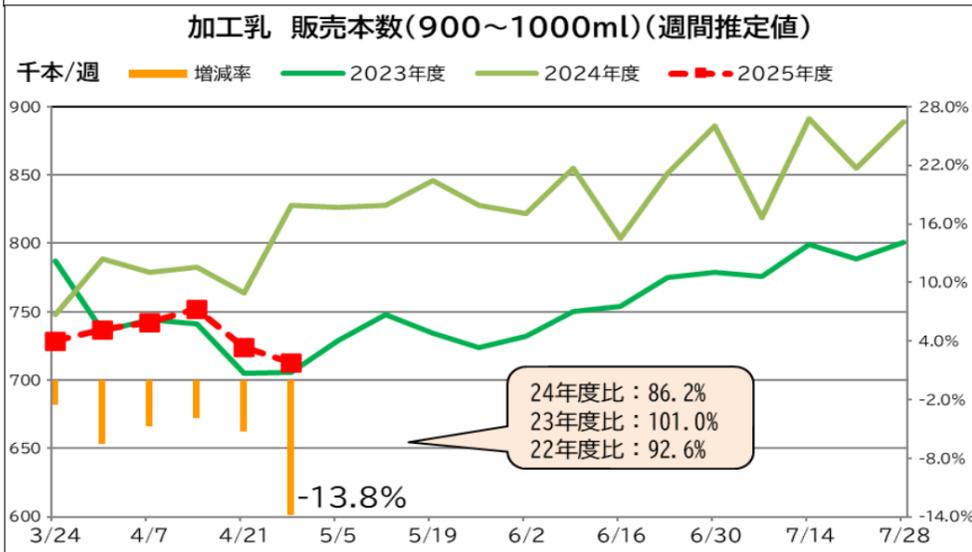
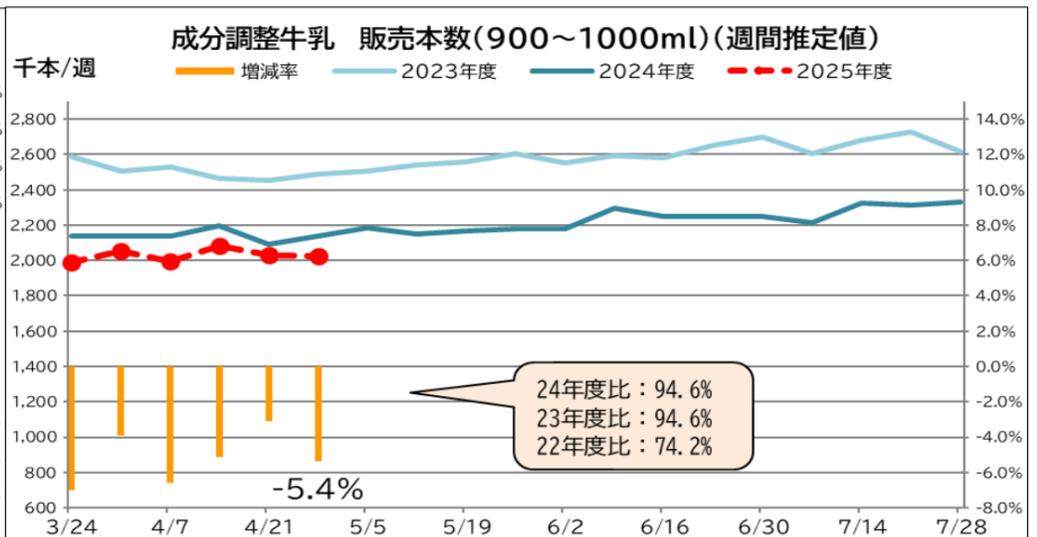
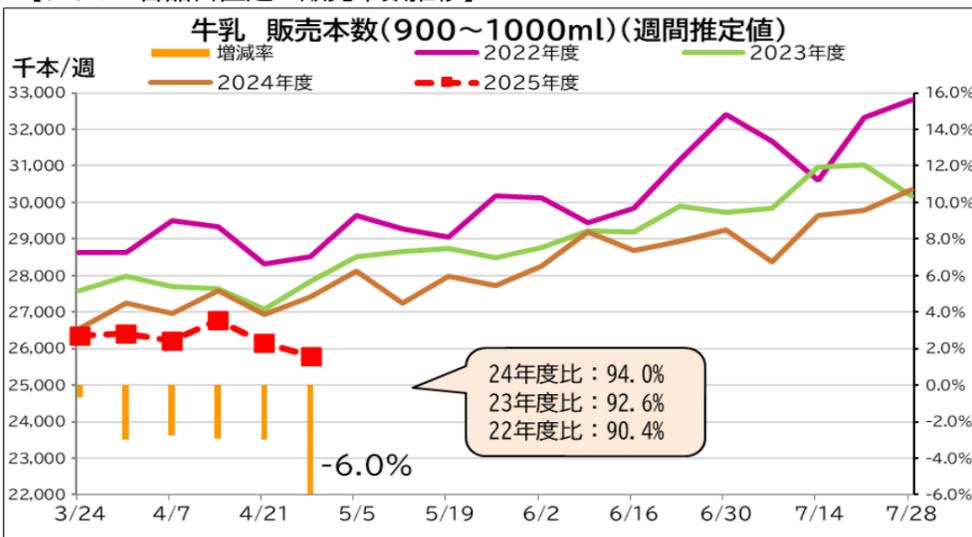
単位:千個、円

品目	区分	2024/11-	2024/12-	2025/1-	2025/2-	2025/3-	2025/4-	2025/4- 2022/10価格差	2025/4- 2023/3価格差	2025/4- 2023/7価格差
		販売個数	147,094	149,786	142,418	134,275	149,689	146,253		
トータル	販売個数前年比	98.9	98.3	97.6	95.7	98.1	95.6	32.8	17.7	15.9
	販売単価	215.8	216.3	216.3	215.9	215.6	215.9			
牛乳	販売個数	112,767	115,582	109,654	103,489	115,533	112,919			
	販売個数前年比	100.5	99.6	98.8	96.8	99.1	96.5	34.5	18.2	17.4
成分調整牛乳	販売個数	9,065	9,170	8,702	8,211	8,882	8,741			
	販売個数前年比	96.0	95.5	96.0	93.4	94.4	94.6	32.4	16.7	13.2
加工乳	販売個数	3,311	3,280	3,094	2,867	3,220	3,169			
	販売個数前年比	100.4	98.4	97.4	95.8	99.7	94.2	28.4	18.7	7.7
乳飲料	販売個数	21,951	21,754	20,968	19,708	22,053	21,424			
	販売個数前年比	92.2	92.8	92.7	91.4	94.3	91.7	23.9	13.3	9.6
	販売単価	172.7	173.4	172.6	172.9	173.1	173.4			

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	3.10-	3.17-	3.24-	3.31-	4.7-	4.14-	4.21-	4.28-	25.4.28- 22.10.24 価格差	25.4.28- 23.3.20 価格差	25.4.28- 23.7.24 価格差
		販売個数	33,084	33,454	34,119	34,131	33,910	34,736	33,898	33,378		
トータル	販売個数前年比	96.9	98.0	98.0	95.8	96.1	96.3	96.6	93.3	33.5	18.6	16.2
	販売単価	215.4	215.7	215.6	215.8	216.0	215.7	216.0	216.7			
牛乳	販売個数	25,483	25,825	26,368	26,418	26,214	26,769	26,149	25,783			
	販売個数前年比	97.7	98.8	99.3	97.0	97.2	97.1	97.0	94.0	35.3	19.0	17.8
成分調整牛乳	販売個数	1,988	1,972	1,989	2,053	1,996	2,083	2,029	2,023			
	販売個数前年比	94.2	94.5	93.0	96.1	93.4	94.9	96.9	94.6	31.0	16.1	11.5
加工乳	販売個数	707	741	729	737	742	752	724	713			
	販売個数前年比	98.3	100.8	97.6	93.4	95.3	96.1	94.8	86.2	27.9	17.6	7.0
乳飲料	販売個数	4,905	4,916	5,032	4,923	4,957	5,132	4,997	4,858			
	販売個数前年比	93.6	94.9	93.7	90.3	91.4	92.9	94.2	90.2	24.3	14.5	9.8
	販売単価	173.2	173.2	172.7	173.6	173.7	173.4	173.0	174.0			

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):インテージSRI+】

(1)直近の週次動向(表⑤参照)

直近(4/28週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比90%以上、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同100%以上。はっ酵乳全体としては、前年を上回る推移となっている。(3品目合計前年同期比90%以上)。

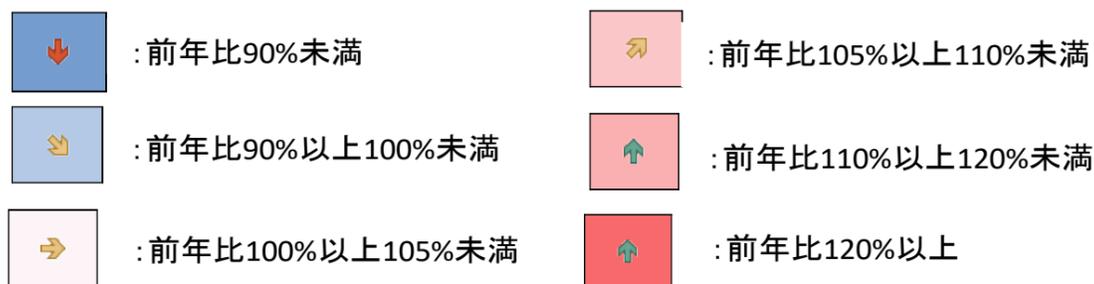
(2)販売個数について、前週(4/21週)との比較では、3品目いずれも減少した。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売個数については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表⑤ ヨーグルト類の販売動向】

単位:千個

品目	3.10-	3.17-	3.24-	3.31-	4.7-	4.14-	4.21-	4.28-
ドリンクタイプ	↘	↘	→	↘	→	↘	↘	↘
個食タイプ	↘	→	↘	↘	↘	↘	↘	↘
大容量タイプ	↗	↗	↗	→	→	↗	↗	→



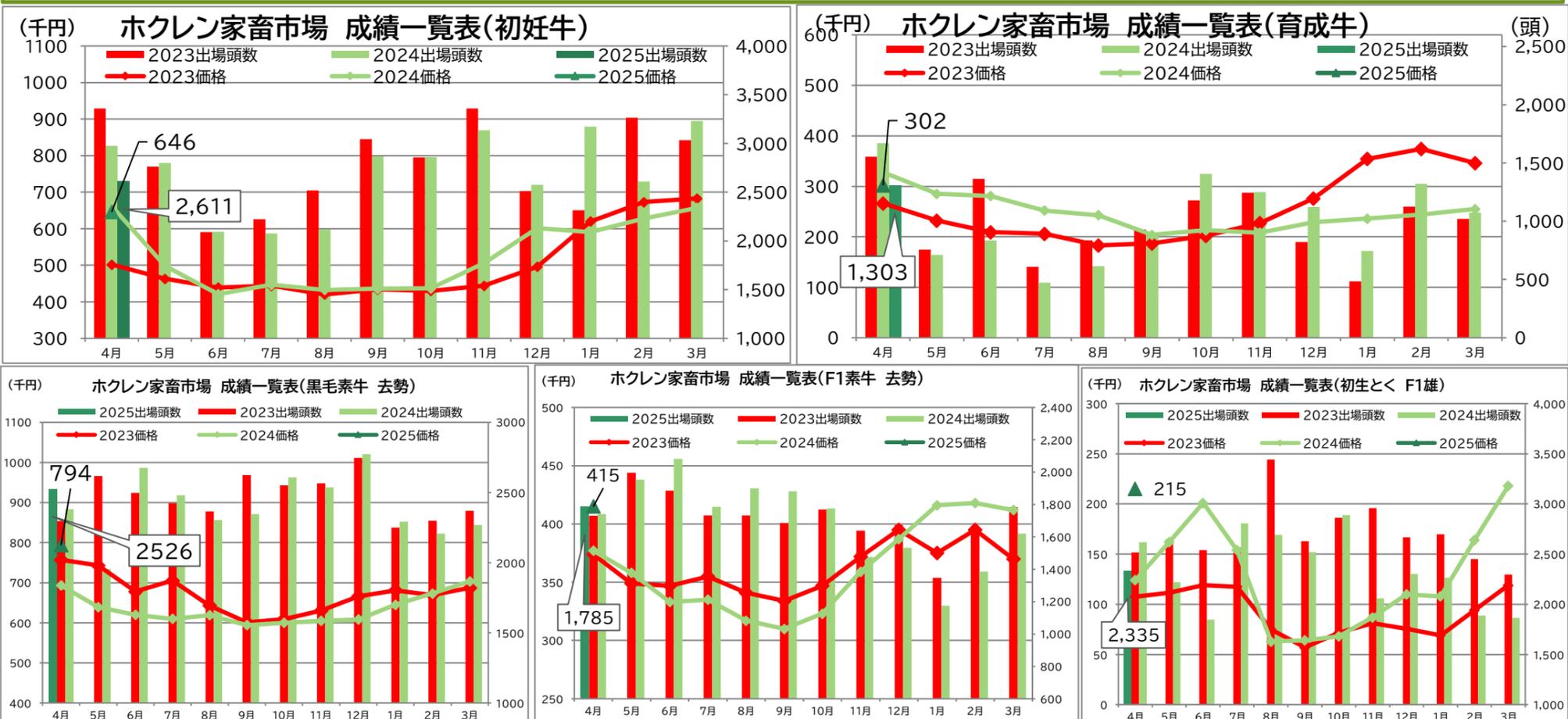
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向(税込)】

(1)4月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は646千円(前年同期比97.6%)、育成牛価格は302千円(同92.1%)、和牛素牛(去勢)価格794千円(同114.6%)、F1素牛(去勢)価格は415千円(同110.1%)。初妊牛は3カ月連続で60万円以上、育成牛は12カ月ぶりに30万円台に上昇したものの前年水準は下回った。ホル初生(雄)価格は77千円(同157.1%)と、2か月連続で前年水準を上回った(グラフ無し)。

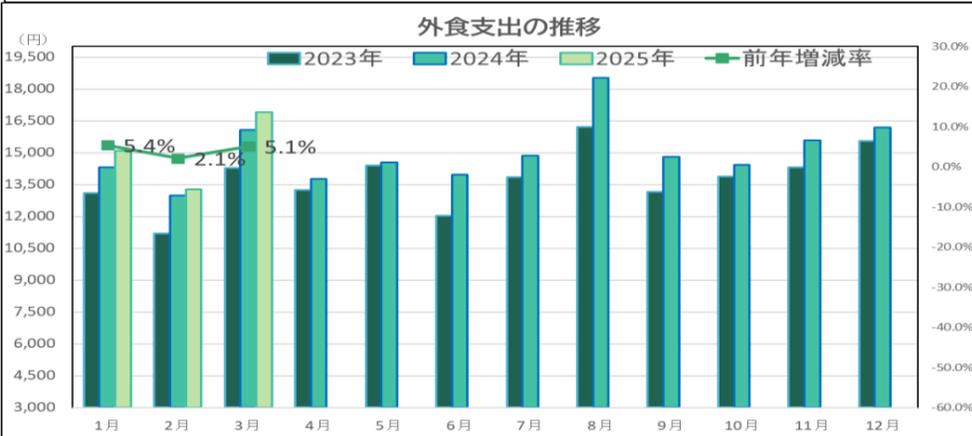
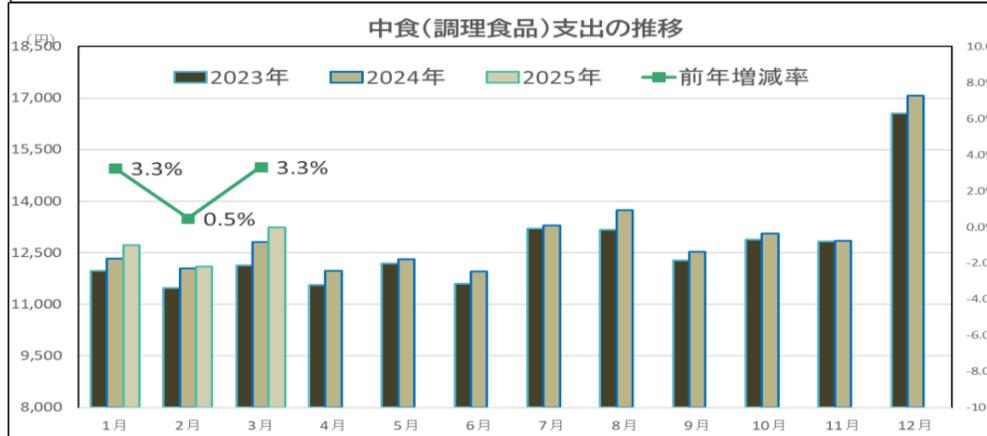
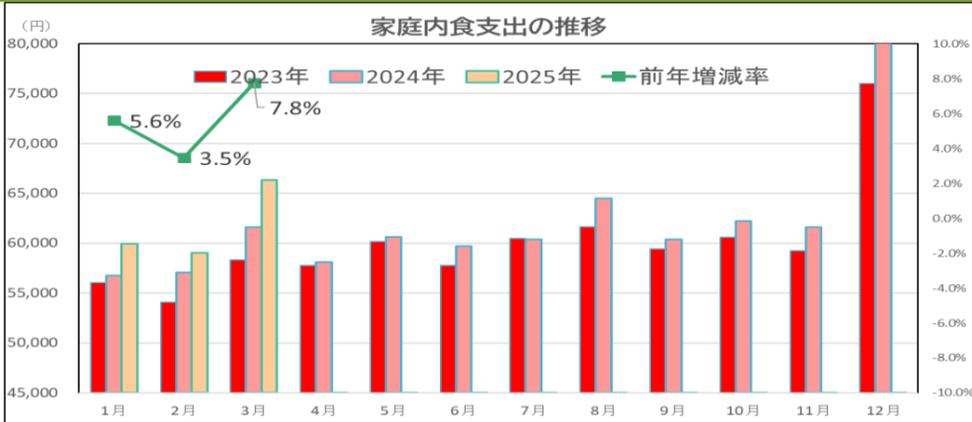
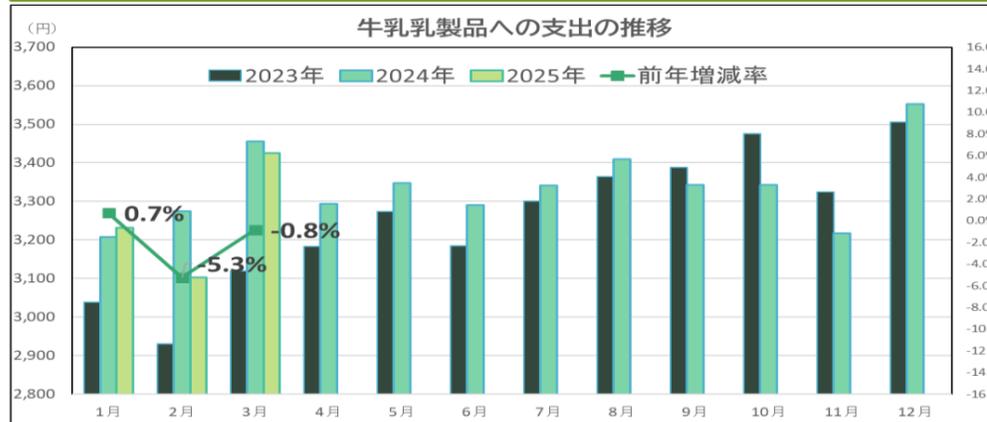
(2)出場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同87.7%、育成牛:同78.0%、F1初生(雄):同89.1%、和牛素牛(去勢):同106.1%、F1素牛(去勢):同102.5%。

※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)

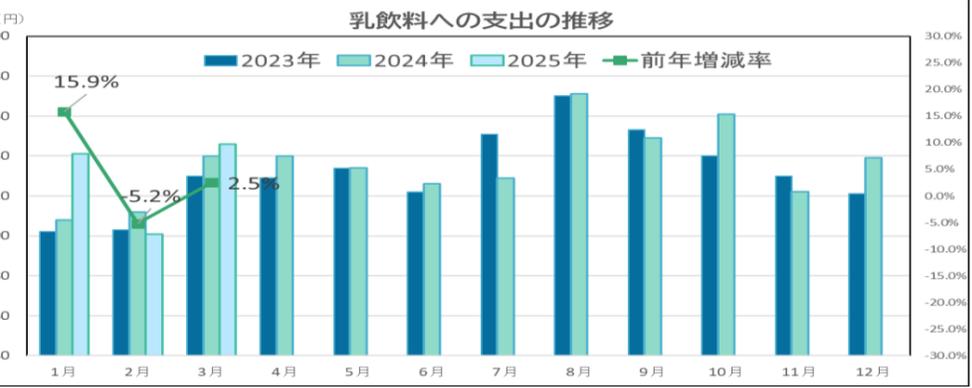
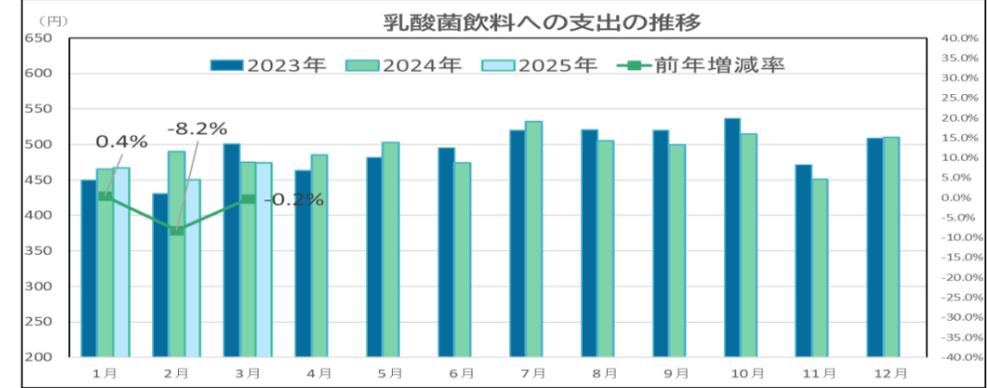
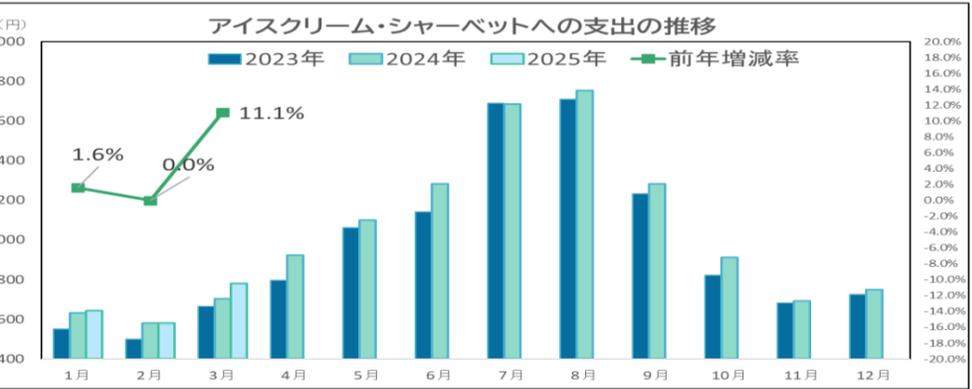
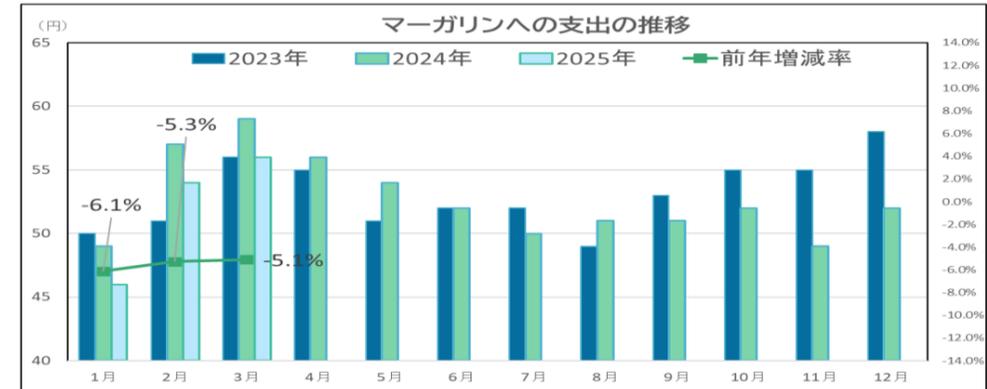
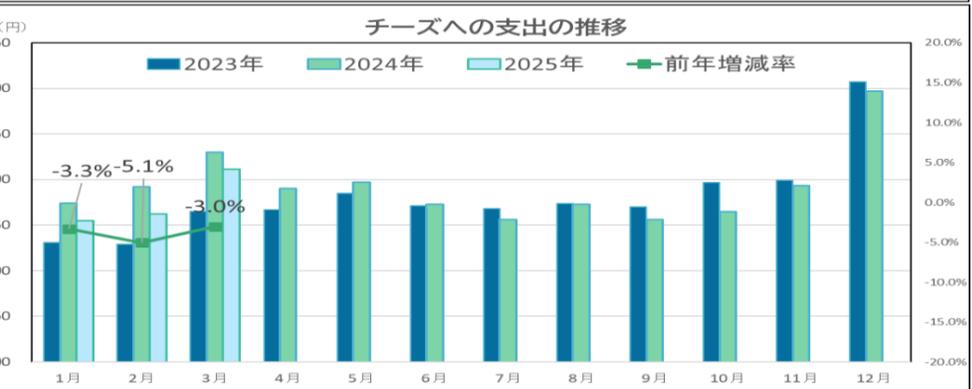
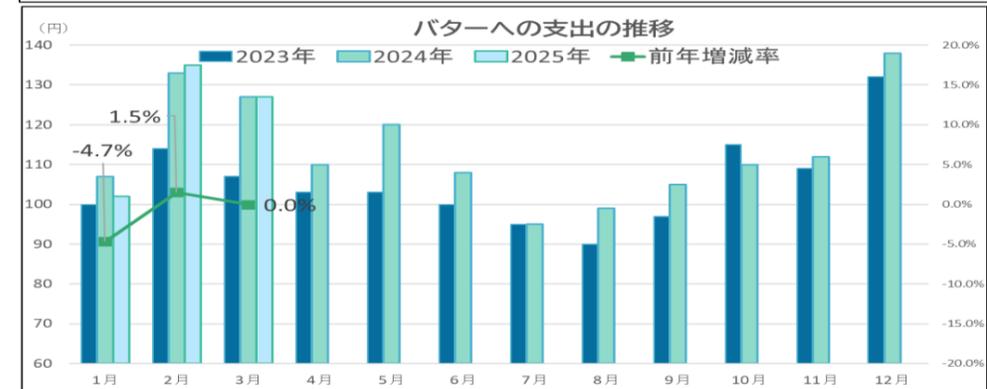
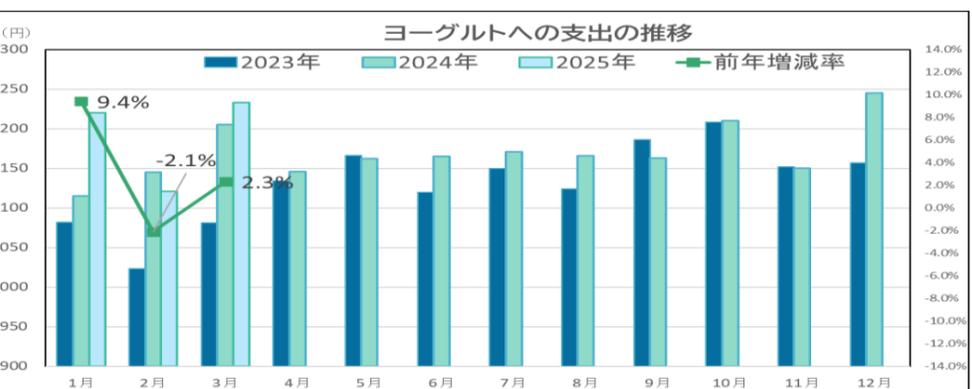
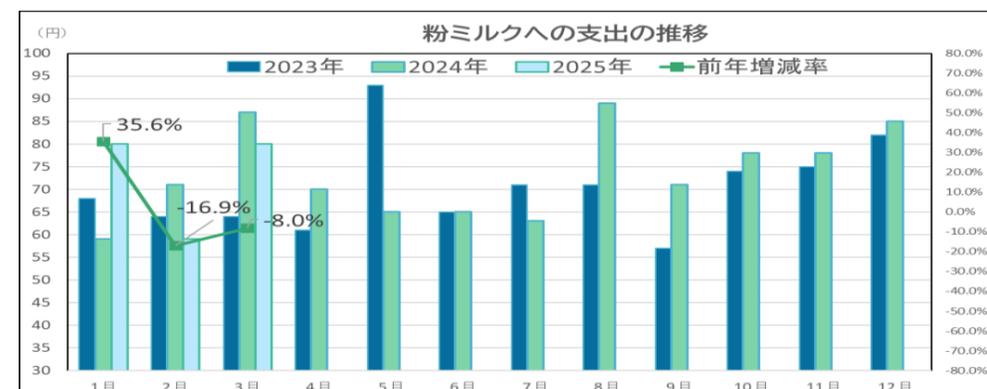


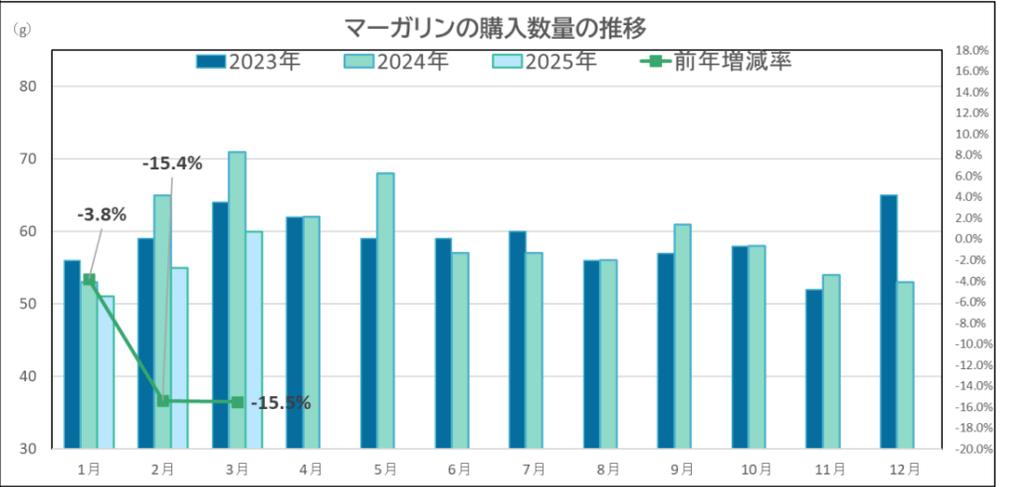
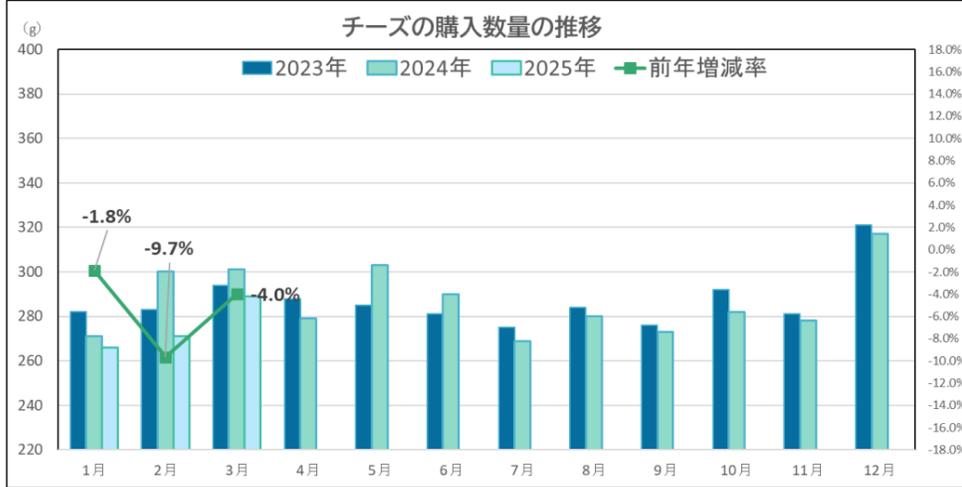
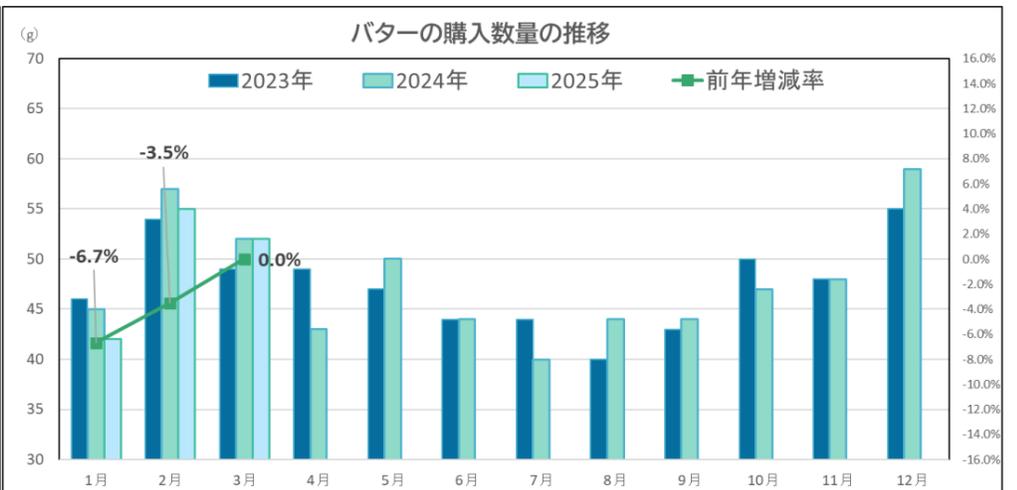
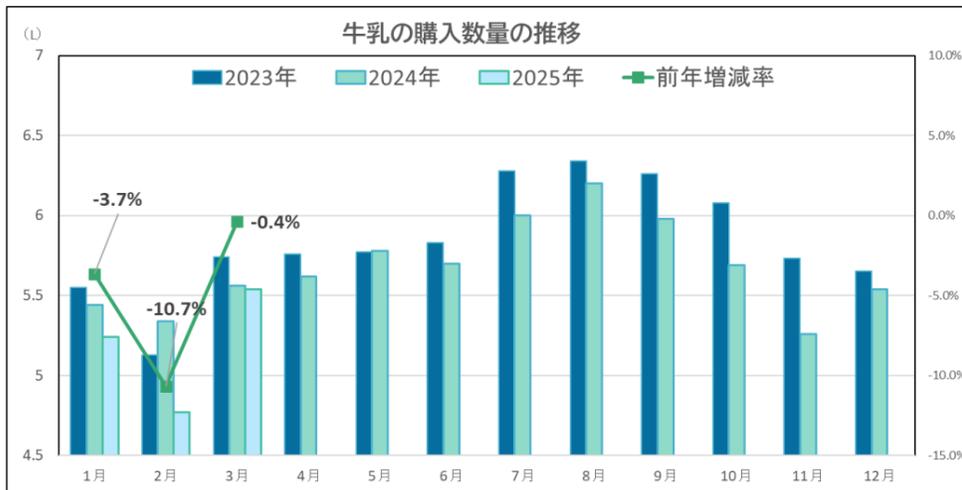
【家計支出の動向】

(1)12月の支出額前年比について、外食102.1%、中食100.5%、内食103.5%といずれも前年を上回り、食料全体への支出額は102.8%となった。  
 (2)牛乳乳製品の支出額も前年比94.7%(うち牛乳90.5%、乳製品97.4%)と3カ月ぶりに前年を下回った。  
 (3)なお、購入量は、牛乳89.3%(1世帯当たり4.77)と9か月連続で前年割れ、チーズは8カ月連続で前年割れ、バターは2カ月ぶりに前年超えとなった。  
 ※総務省家計調査(二人以上の世帯。家庭内食は、食料-調理食品-外食で独自に算出)



【参考:その他品目支出の動向】



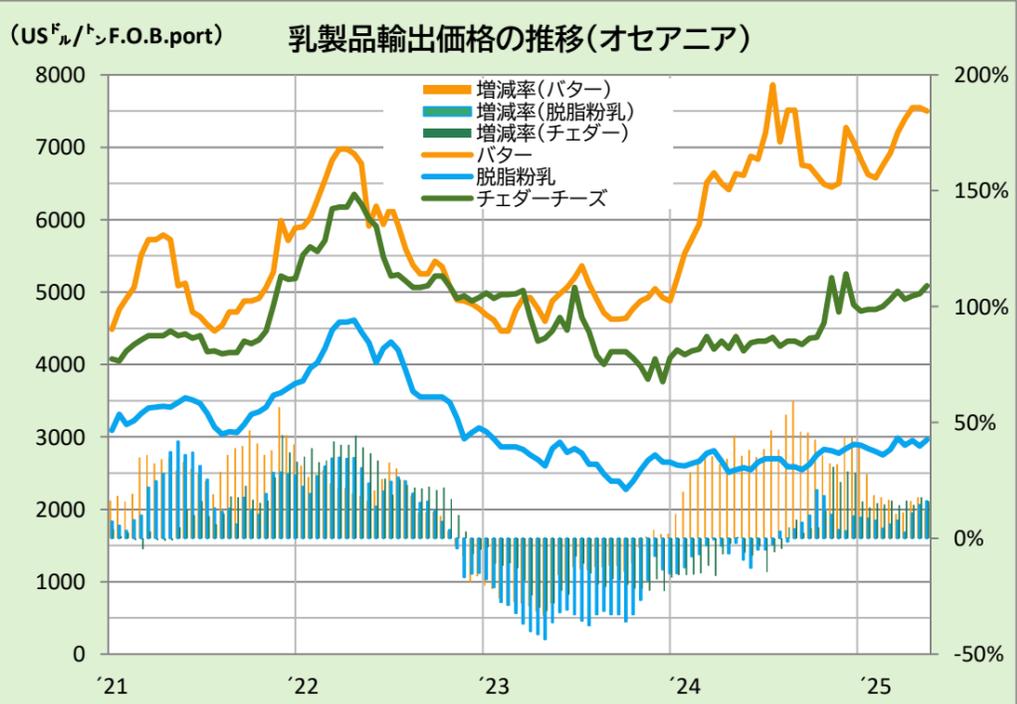
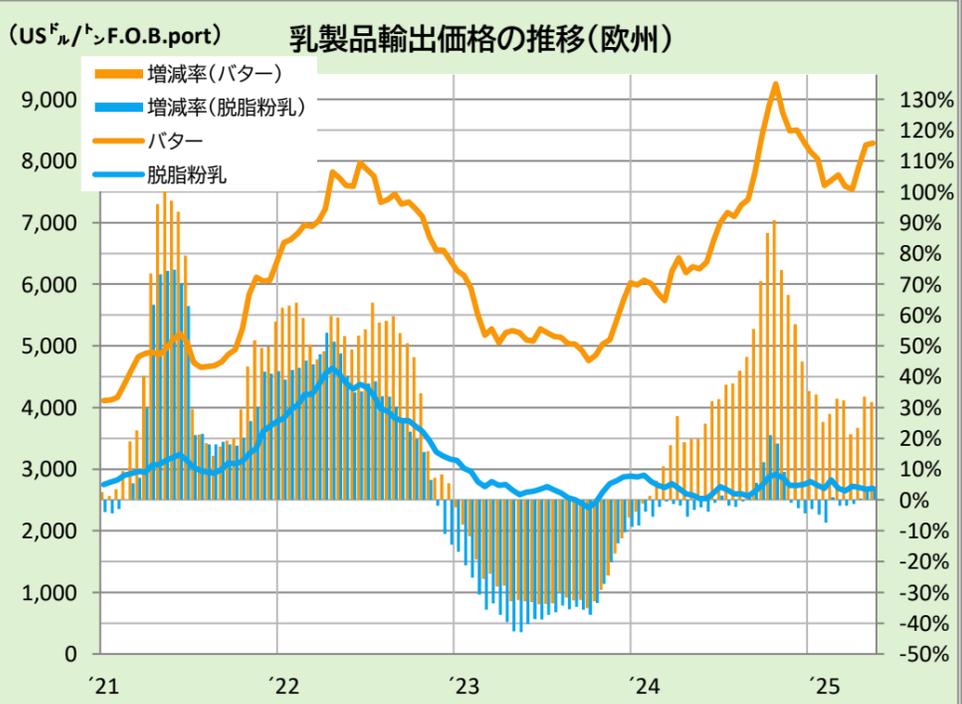


### 【乳製品輸出価格の動向】

(1)直近の乳製品国際相場について(4月中旬)

- ・欧州:脱脂粉乳2,687ドル/ト、バター8,288ドル/ト中心
- ・オセアニア:脱脂粉乳2,963ドル/ト、バター7,500ドル/ト、チェダーチーズは5,088ドル/ト中心

※出典:米国農務省(USDA)



※「2025年度国産牛乳乳製品の需要拡大等事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」